

「税についての作文」祝 藤里町長賞受賞

12月5日、藤里町役場において、藤里町長賞に選ばれた福司穂乃華さんに表彰状が授与されました。

作品紹介

「税金。」

みなさんは税金と聞いて、パツと何種類思い浮かぶますか。税金には、およそ五十種類があります。その中でも、みなさんが知っているもの、聞いたことがあるものや、知らないもの、聞いたことがないものがあると思います。私は、税金の使い道やもし、税金がなくなってしまうとしたら、税金に関する日本の課題点について考えたいと思います。

税金は、消費税、法人税、タバコ税、所得税などの国税と、住民税、事業税、固定資産税などの地方税の二種類に分けることができます。国税の使い道として、警察署や消防署、市役所、公立病院、公園等があるそうです。また、私たち学生が通っている学校の校舎や私たちが使っている学校の机、椅子、黒板、理科の実験道具などにも国税が使われているそうです。地方税は、社会福祉、子育ての生活保護などの民生費に最も多く使われているそうです。また、道路や住宅の建設や管理などの土木費に使われているそうです。国や地方に納めている税金は、私たちの身近なもの様々などところに使われていることが分かりました。

しかし、時代が進むにつれて、税金が少しずつ上がってきています。実際に、飲食料品を買うときにかかる消費税も、二〇一九年十月一日から八%から十%に引き上げられています。またIMFでは、二〇三〇年までに十五%、二〇五〇年に

二十%に引き上げられると勧告しているそうです。少しずつ上がる税金をもし人が納めなくなってしまう、税金がなくなってしまうたらどうなるのでしょうか。

もし税金がなくなってしまうたら、今まで簡単にできていたことが、不可能になってしまったり、何事にも莫大な費用がかかってしまったりするなど、生活するのにとても大きな影響を与えらると思います。例えば、学生だったら、授業を教えてくれる先生がいなくなってしまう、授業が受けられなくなる、道路が舗装されなくなるため、車などが走れなくなってしまう、ゴミ収集車が来ないため、街中にゴミがあふれてしまい、不衛生になるなど、生活するのに多くのことができなくなると思います。また、交通事故や火事などの命の危険などのときに使われる救急車や消防車なども使うことができなくなり、そのまま命を落とすことなどが、税金がなくなってしまうと命を落とす人も増え、人口減少にも関わってくると思います。

このように考えると、税金がどんなに高くなっても、税金を納めることはとても大切であり、人が生きていくには、必要不可欠であると思いました。

今後さらに税金が高くなっていくことが日本の課題だと思っています。現在の日本は、少子高齢化という問題を抱えています。子供が減少していき高齢者が増加するということは、それを支えるために働いて税金を納めている人たちの割合が、年々減少していくことです。このまま少子高齢化が止まることなく進んでいくと、私が四十一歳(二〇五〇年)の時

には、日本の人口が九五一万人まで減少し、六十五歳以上の割合が約四十%まで増加すると言われています。高齢者が増加していくと、年金・医療・福祉などに多くの税金が使われます。このようになってしまくと、働いて税金を納める一人の負担がとても大きくなってしまいます。そのうえで、税金がさらに上がってしまうと、もっと大きな負担になってしまいます。税金をどうしていくか少子高齢化を食い止めるためにどうするかを考えることが大切だと思っています。税金は様々なことに使われ、私たちが生活していく上でとても大切なものだと思います。しかし、大切さより負担の大きさがのうが感じると思っています。日本という国の現状問題と税金の使い道について改めて知り、税金を納めることの大切さを考えるべきではないでしょうか。



福司穂乃華さん(写真中央)

令和7年1月4日(土)から1月12日(日)は、「秋田県雪害事故防止週間」です。
屋根の雪下ろしや除排雪作業中の事故防止に努めましょう。